

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【四半期会計期間】	第37期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社 アイビー化粧品
【英訳名】	IVY COSMETICS CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 白銀 浩二
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂六丁目18番3号
【電話番号】	03（3568）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 財務本部 本部長 中山 聖仁
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂六丁目18番3号
【電話番号】	03（3568）5151（代表）
【事務連絡者氏名】	執行役員 財務本部 本部長 中山 聖仁
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第36期 第2四半期連結 累計期間	第37期 第2四半期連結 累計期間	第36期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(千円)	2,761,191	2,631,495	5,133,721
経常利益(千円)	308,281	330,136	327,248
四半期(当期)純利益(千円)	162,644	164,426	157,156
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	161,261	164,582	155,719
純資産額(千円)	2,732,636	2,773,371	2,717,167
総資産額(千円)	5,740,304	5,751,329	5,603,805
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	7.49	7.60	7.25
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	47.6	48.2	48.5
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	190,117	416,324	443,704
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	6,594	20,348	4,894
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	133,523	131,884	170,630
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高(千円)	803,605	819,946	1,388,855

回次	第36期 第2四半期連結 会計期間	第37期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	18.88	19.87

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 第36期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第37期第2四半期連結累計期間及び第36期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 第36期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国を取り巻く環境は、東日本大震災の影響や海外経済の回復力が弱まっていることを受け、景気や雇用情勢は依然として厳しい状況にあります。しかしながらサプライチェーンの立て直しによる生産活動の回復、輸出の持ち直しの動き、設備投資の下げ止まり、低水準ながら個人消費の持ち直しなどの傾向も見られ、政策効果などを背景にした景気の持ち直しが期待されています。

化粧品訪問販売チャネルの傾向としましては、女性の社会進出が進み戸別訪問による販売が難しくなっている中、店舗化やインターネットによる情報提供などを通して、企業が顧客に対してコミュニケーションを図る取り組みが見られるものの、新規顧客の獲得はなかなか難しい状況が続いています。

このような状況のもとで、当社グループは企業理念「愛と美と豊かさの実践と追求」に基づき、創業当初からこだわってきた“人から人へ伝えていく力”を大切に、コア事業である訪問販売領域の販売組織満足の向上を図るとともに、すべてのステークホルダーの満足獲得を目指し、「驚きと楽しさと感動に溢れる美しい生き方」とともに創造し、幸せと豊かさを提供するワンダ・フル・カンパニーとして成長すべく、企業活動に邁進してまいりました。

具体的には、「アイビーファン10万人づくり」に向けて、基本の仕事である動員・増員・増客を行い、販売拠点の拡大と育成に努めてまいりました。販売拠点である営業所づくりを継続推進し、販売組織の活性化とお客様獲得を積極的に展開してまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の営業所増設数は前年同四半期比66.3%増となり、販売拠点数は量的に増加しました。また当社の理念研修や美容研修の開催・動員のほか、営業所対象の月例会議への動員を通して、育成並びに質的向上にも地道に努めてまいりました。そのような活動の結果、売上高におきましては「リンクル ローション」や「アクシール エッセンス」の美容液は安定して推移しましたが、第1四半期の売上高減額分までをカバーするには至りませんでした。利益面におきましては、引き続き販売費及び一般管理費の節減に全社を挙げて努めました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,631,495千円（前年同四半期比4.7%減）、営業利益332,982千円（同5.6%増）、経常利益330,136千円（同7.1%増）、四半期純利益164,426千円（同1.1%増）の減収増益となりました。

なお、当社グループの事業は単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 財政状態の状況

資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産の残高は3,651,121千円（前連結会計年度末は3,458,898千円）となり、前連結会計年度末に比べ192,222千円増加しました。これは主に現金及び預金が568,908千円減少したものの、受取手形及び売掛金が686,774千円増加したことによるものであります。

(固定資産)

当第2四半期連結会計期間末における固定資産の残高は2,098,799千円（同2,143,028千円）となり、前連結会計年度末に比べ44,228千円減少しました。これは主に有形固定資産が19,166千円減少したことによるものであります。

(繰延資産)

当第2四半期連結会計期間末における繰延資産の残高は1,408千円（同1,878千円）となり、前連結会計年度末に比べ469千円減少しました。これは社債発行費が469千円減少したことによるものであります。

(流動負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債の残高は2,533,458千円となり(同2,407,237千円)となり、前連結会計年度末に比べ126,220千円増加しました。これは主に支払手形及び買掛金が43,940千円、未払金が70,664千円増加したことによるものであります。

(固定負債)

当第2四半期連結会計期間末における固定負債の残高は444,499千円(同479,399千円)となり、前連結会計年度末に比べ34,900千円減少しました。これは主に社債が15,000千円、未払役員退職慰労金が24,045千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は2,773,371千円(同2,717,167千円)となり、前連結会計年度末に比べ56,203千円増加しました。これは主に剰余金の配当が108,195千円計上されたものの、四半期純利益が164,426千円計上されたことによるものであります。この結果、自己資本比率は、48.2%(同48.5%)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、売上債権の増加、法人税等の支払、配当金の支払等があるものの、税金等調整前四半期純利益の計上、減価償却費、未払金の増加等により、前四半期連結累計期間末に比べ16,341千円増加し、当第2四半期連結累計期間末には819,946千円となりました。

また当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果使用した資金は416,324千円(前年同四半期比226,207千円増)となりました。

これは主に税金等調整前四半期純利益322,386千円、減価償却費66,730千円、未払金の増加額63,434千円等があるものの、売上債権の増加額686,555千円、法人税等の支払額123,103千円、たな卸資産の増加額37,872千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は20,348千円(前年同四半期は6,594千円の獲得)となりました。

これは主に貸付金の回収による収入12,262千円等があるものの、無形固定資産の取得による支出19,965千円、貸付けによる支出10,000千円等があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は131,884千円(前年同四半期比1,639千円減)となりました。

これは主に配当金の支払額107,727千円、社債の償還による支出15,000千円等があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、106,617千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	25,520,000	25,520,000	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	25,520,000	25,520,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	25,520,000	-	804,200	-	343,800

(6)【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
白銀 浩二	東京都港区	4,584	17.96
白銀 真也	東京都武蔵野市	3,228	12.65
株式会社エスケービジネス	東京都港区赤坂 8 丁目10番30号	1,800	7.05
安藤 視基子	東京都港区	808	3.16
アイビー化粧品取引先持株会	東京都港区赤坂 6 丁目18番 3 号	751	2.94
白銀 恵美子	東京都港区	650	2.54
アイビー共栄会	東京都港区赤坂 6 丁目18番 3 号	476	1.86
株式会社プリーズ	東京都武蔵野市桜堤 2 丁目13番 1 号	420	1.64
安藤 一人	大阪府大阪市中央区	348	1.36
安藤 英雄	東京都港区	280	1.09
計	-	13,346	52.29

(注) 上記のほか、自己株式が3,882千株あります。

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 3,882,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 21,482,000	21,482	-
単元未満株式	普通株式 156,000	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	25,520,000	-	-
総株主の議決権	-	21,482	-

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社アイビー化粧品	東京都港区赤坂6丁目18番3号	3,882,000	-	3,882,000	15.21
計	-	3,882,000	-	3,882,000	15.21

(注) 上記のほか、株主名簿上は当社名義となっておりますが実質的に所有していない株式が3,000株(議決権の数3個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の欄に含まれております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東光監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,438,855	869,946
受取手形及び売掛金	1,338,696	2,025,470
商品及び製品	339,021	379,780
仕掛品	12,344	5,374
原材料及び貯蔵品	191,739	195,822
その他	190,638	236,781
貸倒引当金	52,396	62,053
流動資産合計	3,458,898	3,651,121
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	505,124	489,333
機械装置及び運搬具(純額)	70,528	64,924
土地	521,190	521,190
その他(純額)	39,633	41,863
有形固定資産合計	1,136,476	1,117,310
無形固定資産	59,233	62,914
投資その他の資産		
投資不動産(純額)	283,888	281,460
差入保証金	402,831	402,263
その他	317,454	289,877
貸倒引当金	56,856	55,025
投資その他の資産合計	947,318	918,574
固定資産合計	2,143,028	2,098,799
繰延資産		
社債発行費	1,878	1,408
繰延資産合計	1,878	1,408
資産合計	5,603,805	5,751,329

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	417,881	461,822
短期借入金	800,000	800,000
1年内償還予定の社債	530,000	530,000
未払法人税等	128,069	157,237
賞与引当金	114,535	103,197
返品廃棄損失引当金	6,000	6,000
その他	410,750	475,199
流動負債合計	2,407,237	2,533,458
固定負債		
社債	320,000	305,000
退職給付引当金	99,416	107,092
その他	59,983	32,406
固定負債合計	479,399	444,499
負債合計	2,886,637	2,977,958
純資産の部		
株主資本		
資本金	804,200	804,200
資本剰余金	343,800	343,800
利益剰余金	2,960,372	3,016,604
自己株式	1,269,656	1,269,839
株主資本合計	2,838,715	2,894,764
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,047	1,892
土地再評価差額金	119,500	119,500
その他の包括利益累計額合計	121,548	121,393
純資産合計	2,717,167	2,773,371
負債純資産合計	5,603,805	5,751,329

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	1 2,761,191	1 2,631,495
売上原価	700,518	579,060
売上総利益	2,060,672	2,052,435
販売費及び一般管理費	2 1,745,234	2 1,719,452
営業利益	315,438	332,982
営業外収益		
受取利息	2,588	2,227
受取配当金	310	320
受取賃貸料	19,997	15,233
雑収入	15,556	14,763
営業外収益合計	38,453	32,544
営業外費用		
支払利息	10,134	9,034
賃貸収入原価	31,482	21,661
雑損失	3,992	4,694
営業外費用合計	45,610	35,390
経常利益	308,281	330,136
特別損失		
会員権評価損	-	7,750
特別損失合計	-	7,750
税金等調整前四半期純利益	308,281	322,386
法人税、住民税及び事業税	147,120	151,853
法人税等調整額	1,483	6,106
法人税等合計	145,637	157,959
少数株主損益調整前四半期純利益	162,644	164,426
四半期純利益	162,644	164,426

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	162,644	164,426
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	1,383	155
その他の包括利益合計	1,383	155
四半期包括利益	161,261	164,582
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	161,261	164,582

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	308,281	322,386
減価償却費	73,477	66,730
退職給付引当金の増減額(は減少)	1,732	7,676
賞与引当金の増減額(は減少)	505	11,338
貸倒引当金の増減額(は減少)	4,457	7,827
受取利息及び受取配当金	2,899	2,548
支払利息	10,134	9,034
為替差損益(は益)	162	351
有形固定資産除売却損益(は益)	78	431
売上債権の増減額(は増加)	732,744	686,555
たな卸資産の増減額(は増加)	20,308	37,872
仕入債務の増減額(は減少)	102,220	43,940
未払金の増減額(は減少)	61,802	63,434
未払役員退職慰労金の増減額(は減少)	-	24,045
その他	19,732	46,124
小計	136,214	286,670
利息及び配当金の受取額	1,858	2,505
利息の支払額	10,040	9,056
法人税等の支払額	45,720	123,103
営業活動によるキャッシュ・フロー	190,117	416,324
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	6,146	3,270
無形固定資産の取得による支出	4,194	19,965
貸付けによる支出	-	10,000
貸付金の回収による収入	5,612	12,262
差入保証金の差入による支出	164	362
差入保証金の回収による収入	3,773	987
その他	7,713	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,594	20,348
財務活動によるキャッシュ・フロー		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	8,982	8,973
社債の償還による支出	15,000	15,000
自己株式の取得による支出	56	183
配当金の支払額	109,484	107,727
財務活動によるキャッシュ・フロー	133,523	131,884
現金及び現金同等物に係る換算差額	162	351
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	317,209	568,908
現金及び現金同等物の期首残高	1,120,814	1,388,855
現金及び現金同等物の四半期末残高	803,605	819,946

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間
(自平成23年4月1日
至平成23年9月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

当社グループでは、主として第2四半期連結会計期間及び第4四半期連結会計期間に集中して売上高が発生するため、通常第2四半期連結累計期間の売上高は、第1四半期連結累計期間の売上高を2倍した金額と比べ著しく高くなっております。

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
給与手当	383,070千円	395,673千円
賞与引当金繰入額	89,817	90,489
退職給付費用	43,366	53,314
貸倒引当金繰入額	8,457	7,827

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び預金勘定	853,605千円	869,946千円
預入期間が3か月を越える定期預金	50,000	50,000
現金及び現金同等物	803,605	819,946

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

配当に関する事項

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月29日 定時株主総会	普通株式	108,586	5.00	平成22年3月31日	平成22年6月30日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

配当に関する事項

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	108,195	5.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

当社グループは化粧品の専門メーカーとして、同一セグメントに属する化粧品の製造、販売を行っているため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	7円49銭	7円60銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	162,644	164,426
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	162,644	164,426
普通株式の期中平均株式数(千株)	21,716	21,638
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月7日

株式会社アイビー化粧品
取締役会 御中

東光監査法人

指定社員 公認会計士 佐藤 明充 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 勝 伸一郎 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイビー化粧品の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイビー化粧品及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。